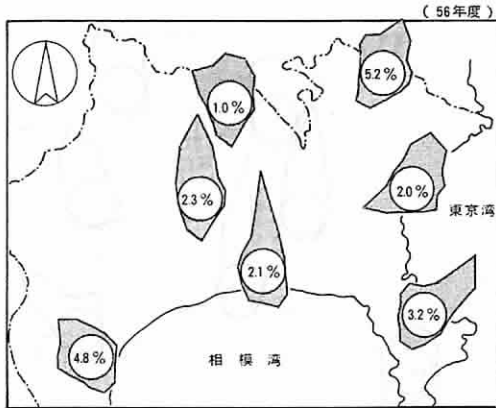


第8節 気象

大気汚染は、大気中に排出される汚染物質の量とそれを移流拡散する主な要因である気象の条件によって大きく影響される。

本県では、全測定局において、風向、風速、温度、湿度又9地点で紫外線量を観測している。なお、立体的（高度別）な気象観測も3地点で行っている。

1. 風向頻度(年間)



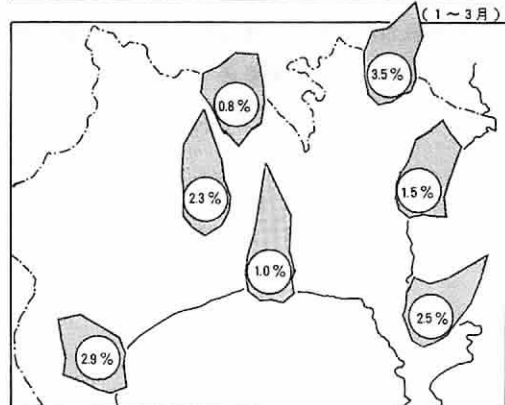
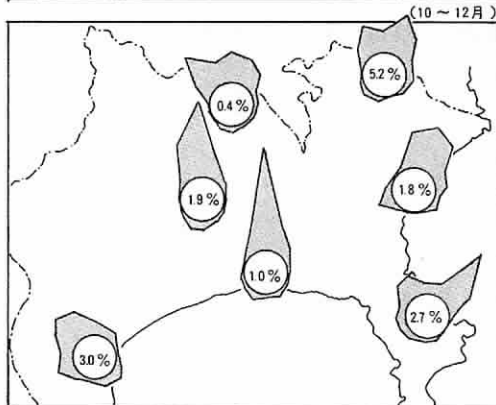
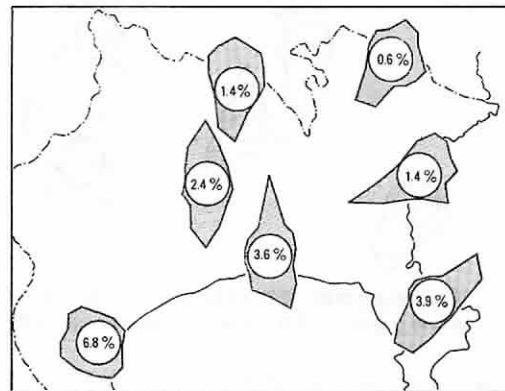
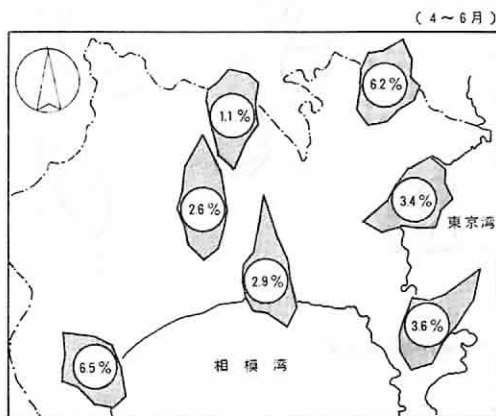
円内の数値は、静穏(風速 0.4 m/s 以下)の割合を示す。
 県下の主要地点の四半期別の風向頻度を示す。

◀ 県下の風は、年間で見ると県内陸部では南北方向、東京湾岸では北東・南西方向が比較的多い。

また、県西部では山等の地形的な影響を受け、北西・南東方向の風が多い。

2. 風向頻度(四半期別)

(56年度)

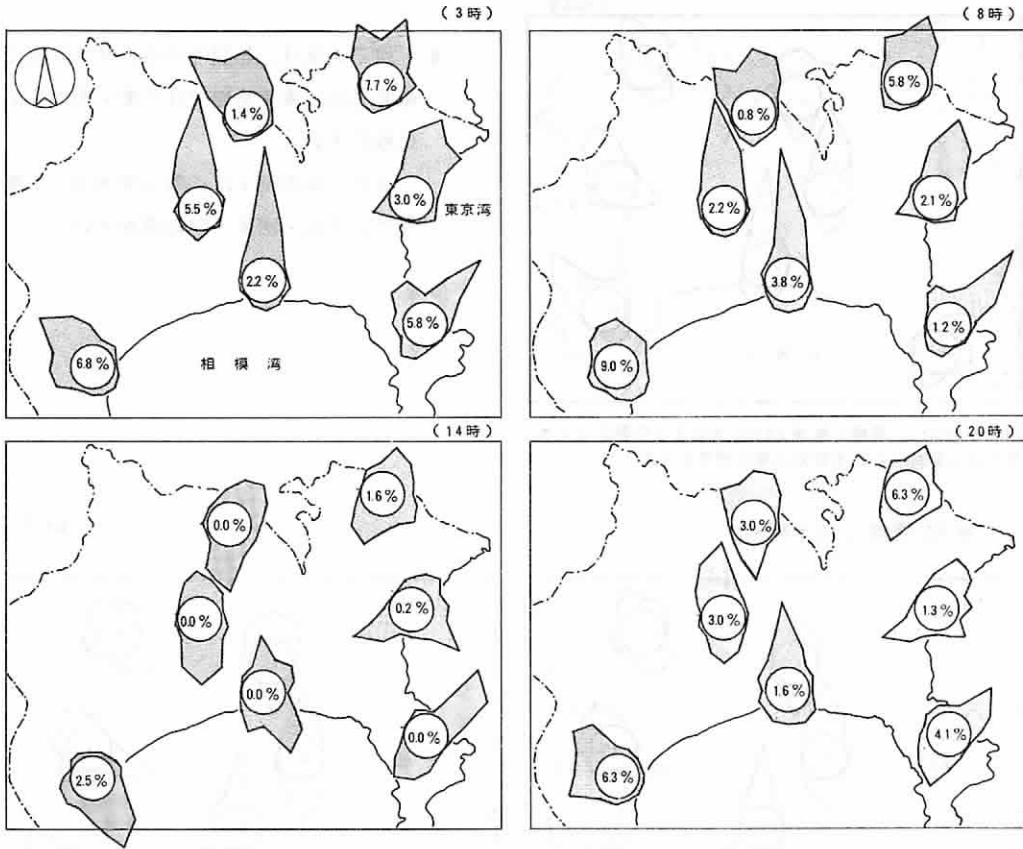


円内の数値は、静穏(風速 0.4 m/s 以下)の割合を示す。
 県下の主要地点の四半期別の風向頻度を示す。

▲ 第1, 第2四半期はほぼ同じ風向頻度を示し、比較的南系統の風が多いが、第3, 第4四半期では大部分が北系統の風となっている。

3. 風向頻度（時間別）

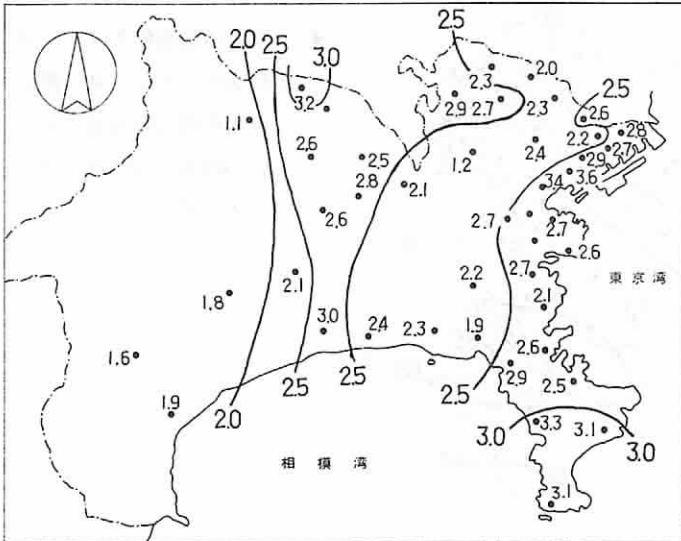
（56年度）



円内の数値は静穏（風速 0.4 m/s 以下）の割合を示す。
 県下の主要地点の3時，8時，14時，20時の年間における風向頻度を示す。

- ▲ 3時と8時は、ほぼ同じ風向頻度を示し、南・北系統の風が多い。14時は、県内陸部では比較的南風が多くなり、東京湾岸では東・西系統、県西部では南系統の風が多い。20時は、3時と8時にはほぼ同じ風向頻度となっている。

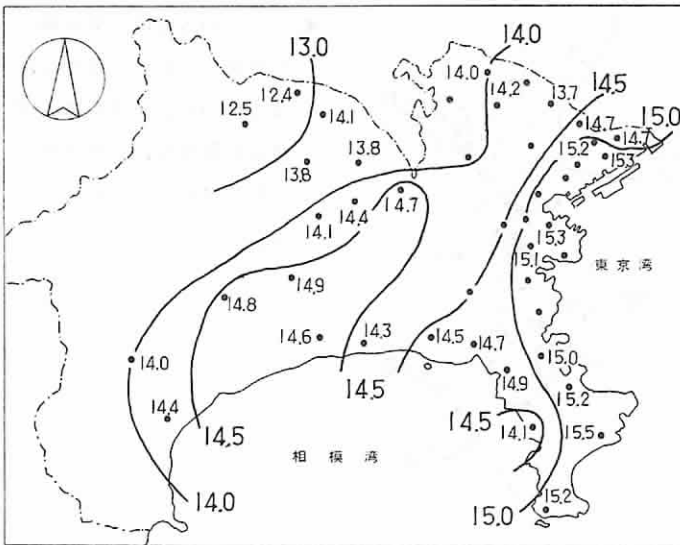
4. 風速の地域分布 (年平均値, m/s) (56年度)



◀ 県下の風速は、県中央を流れる相模川沿と東京湾岸の南北方向の地域で強く、山地等の影響を受ける県西部で比較的弱くなっている。

数値は、風速の年平均値(基準化したもの)を示す。
各地点における風速計の設置高度が異なるため、「風速の指数法則」の関係から、高度20mの風速に基準化を行った。

5. 気温の地域分布 (年平均値, °C) (56年度)

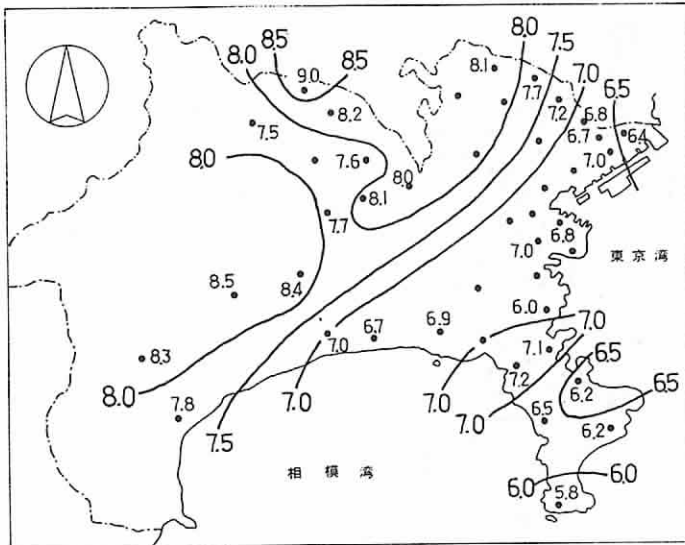


◀ 県下の気温は、東京湾岸沿で比較的高く、内陸部や県西部で低くなっている。

数値は、気温の1時間値の年平均値を示す。

6. 気温較差の地域分布(年平均値, °C)

(56年度)

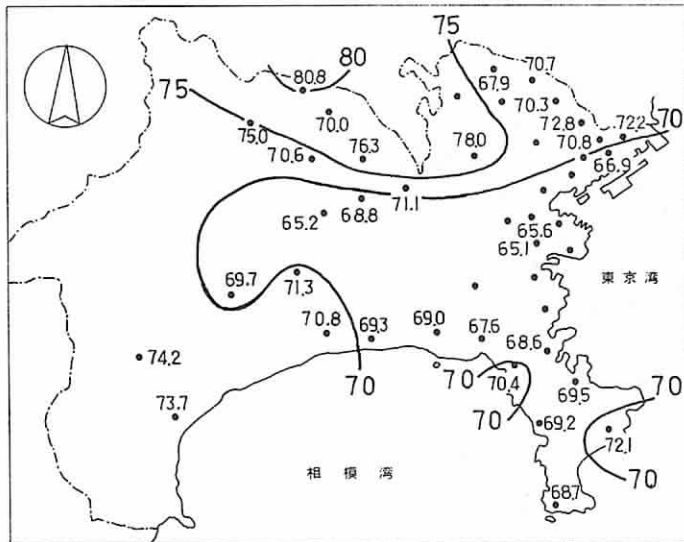


数値は、1日の内の最高気温と最低気温の差の年平均値を示す。

◀ 県下の気温較差は、三浦半島を中心として東京湾岸沿と相模湾沿の地域で小さく、内陸部で比較的大きくなっている。

7. 湿度の地域分布(年平均値, %)

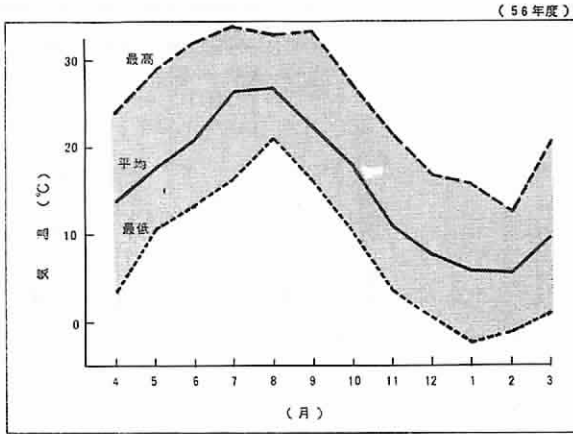
(56年度)



数値は、湿度の年平均値を示す。

◀ 県下の湿度は、東京湾岸地域を中心にして県中央部まで低いが、東京都側の内陸部や県西部、三浦半島の一部で比較的高くなっている。

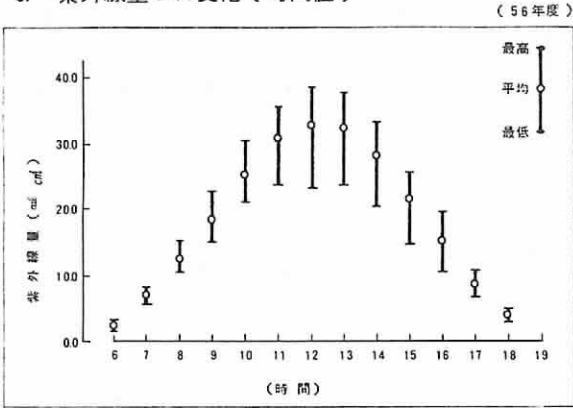
8. 気温の年変化（月平均値）



使用した気温の観測結果は、神奈川県庁のものである。

◀ 県下の気温は、神奈川県庁の月平均値でみると8月が最も高いが、6月から9月までの間、最高気温が30℃を超えている。

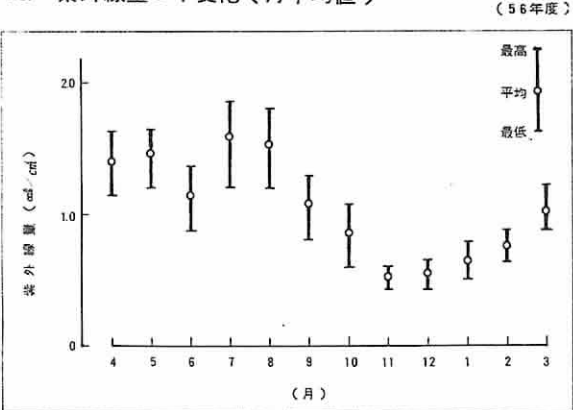
9. 紫外線量の日変化（時間値）



県下の9地点における年間観測結果から求めた。

◀ 県下の紫外線量の日変化は、12時に最高となっており、時間的にはほぼ左右対象となっている。

10. 紫外線量の年変化（月平均値）

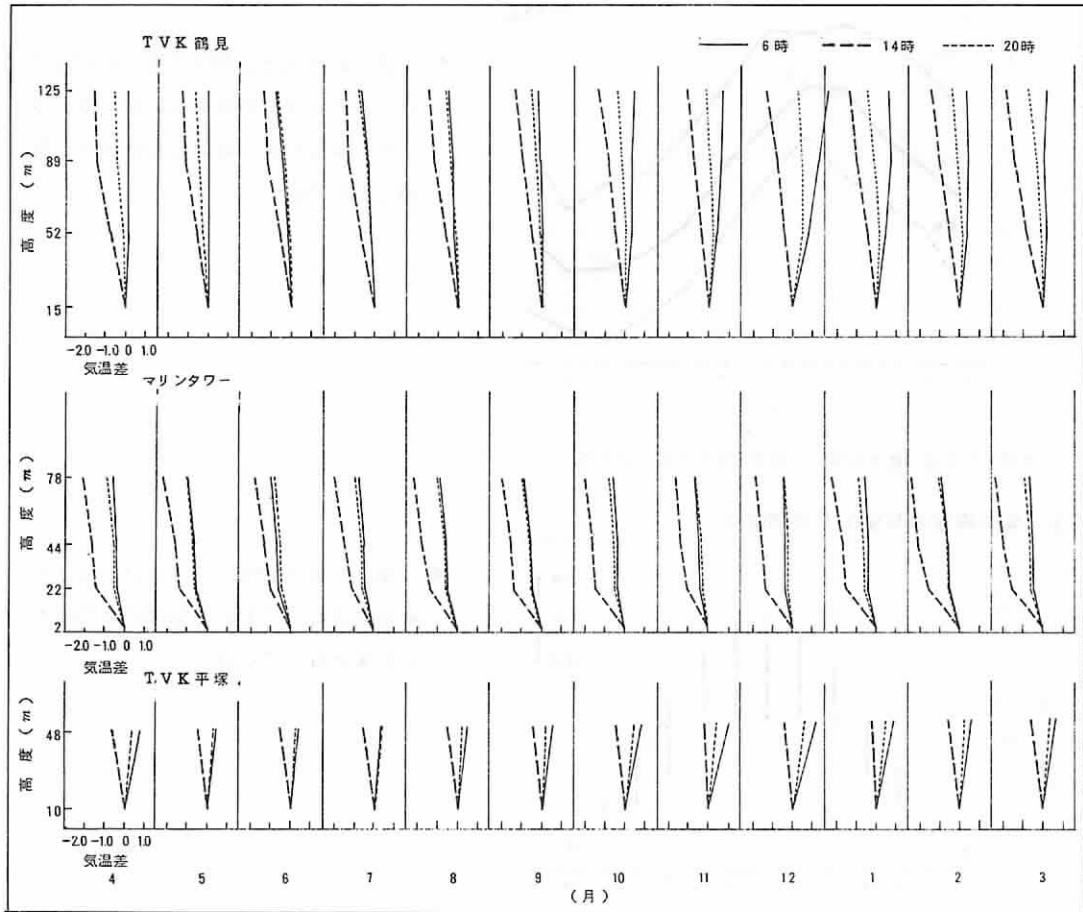


県下の9地点における年間観測結果から求めた。

◀ 県下の紫外線量の年変化は、7月に最高となっており、11月に最低となっている。なお、6月は梅雨等の影響で紫外線量が比較的少なくなっている。

11. 高度別の気温差 (月平均値, °C)

(56年度)



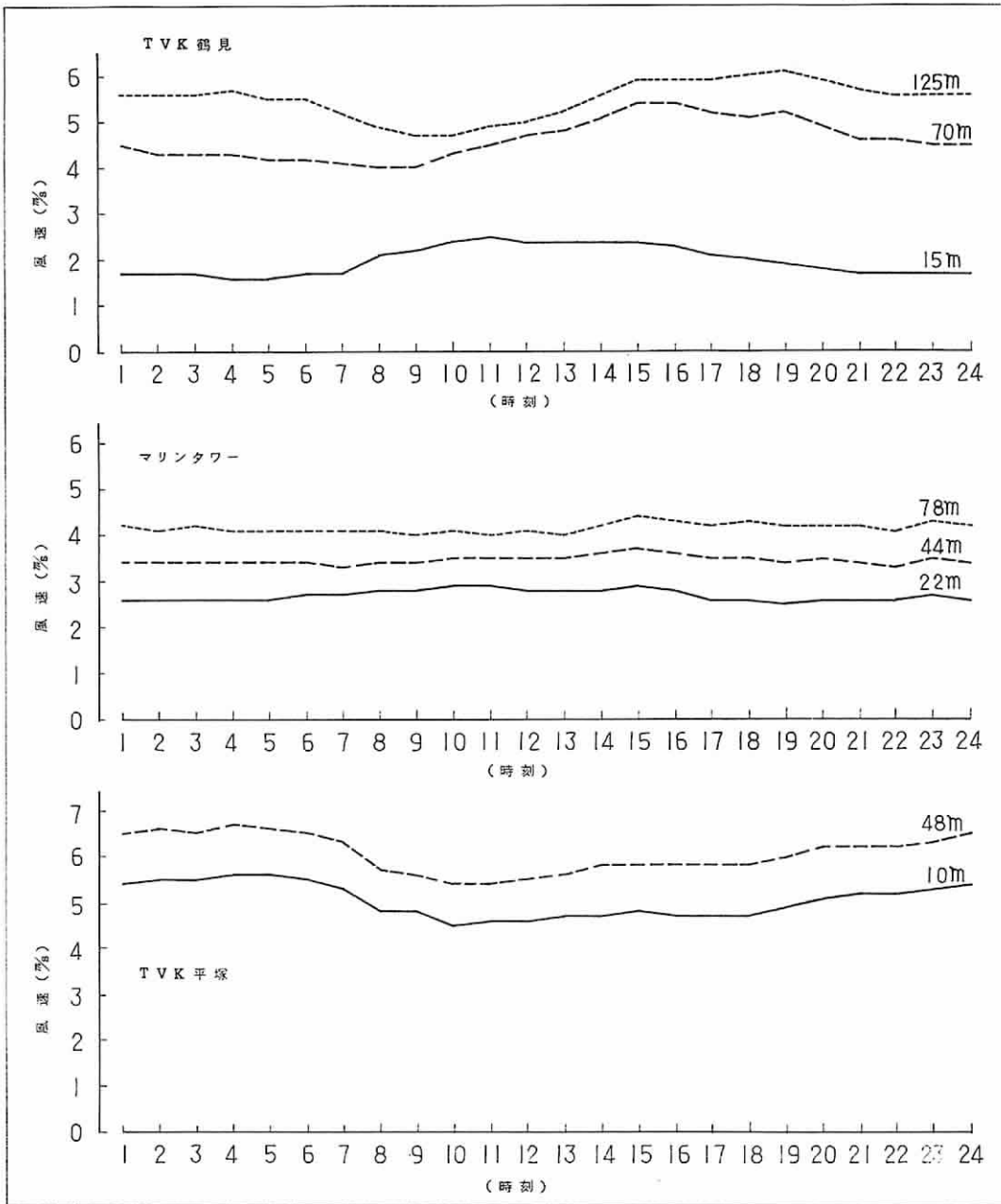
県下の3地点における立体気象局の高度別気温をTVK鶴見は、地上15m、マリントワーは地上2m、TVK平塚は地上10mの気温を基準としてその差を求めた。

▲ 3地点における高度別気温差をみると、14時は、上空ほど低い気温であり、20時では高度別にはほぼ等温、6時では、高度別に等温又は上空が高い気温となっている。

上空が地上に比べて高い気温の場合、大気が安定な状態、逆の場合、大気が不安定な状態といい、一般的に安定状態では大気汚染が激しくなる。

12. 風速の日変化(高度別)

(56年度)



県下3地点における立体気象局の各高度別の観測結果から求めた。

▲ 県下の風速は、高度別にみると高度が増すに従って強くなっている。

TVK平塚は山頂(海拔約200m)に設置されているため、低い高度でも風速は強く、TVK鶴見の高度125mとほぼ同じ傾向を示している。マリントワーでは、顕著な日変化はみられない。

